

第3回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

1. 日 時 令和6年11月20日午後6時30分～午後7時45分（1時間15分）

1. 場 所 調布市教育会館 301研修室

1. 出席委員 委員長 阿 部 光

副委員長 徳 永 孝 正

委員 阿 部 隆 行

委員 山 田 勝

委員 川 端 宏 志

委員 門 脇 義 徳

委員 清 水 良 夫

委員 菰 澤 加代子

委員 藤 堂 文 子

委員 高 橋 慎 一

委員 小 林 力

委員 関 口 幸 司

委員 三 井 豊

委員 泉 健一郎

委員 深 沢 典 充

委員 渡 辺 賢 治

委員 山 岸 義 大

委員 伊 藤 宏

1. 事務局出席者 教 育 長 大和田 正 治

指導室統括指導主事 門 田 英 朗

指導室副主幹兼指導係長 佐 藤 晋太郎

指導室教育支援専門官 小 林 達 哉

指導室指導係主任 神 田 克 洋

スポーツ振興課長補佐兼係長 吉 野 秀 郷

スポーツ振興課主任 村 山 宏 樹

スポーツ振興課主任 岡 部 瑞 希

1 開会

○阿部委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第3回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催したいと思います。

本日はお忙しい中、また、すごく寒い中、お越しいただきまして、ありがとうございます。なるべく議事運営をスムーズに進行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、まずは事務局より資料の説明がございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（佐藤） 確認させていただきます。

本日は、次第と、その後ろに委員名簿、その後ろに検討委員会の要綱。その後、資料1から資料7までつけさせていただいております。不足がある方がいたら、挙手いただきたいと思います。よろしいでしょうか。――では、よろしくお願いいたします。

○阿部委員長 ありがとうございました。もし途中で不足の資料がありましたら、言っていただければ御用意しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続いて、会議の公開についてお知らせいたします。本検討委員会の議論の経過を広く市民や関係者に周知し、取組の理解促進を図ることが重要であるということから、本日の議事内容を録音させていただき、議事録作成の上、後日、市ホームページへ公開予定としておりますので、あらかじめ御了承ください。

2 あいさつ

○阿部委員長 それでは、次第の2、委員会の開会に当たりまして、教育長・大和田より、ごあいさつを申し上げます。

○大和田教育長 改めまして、こんばんは。教育長の大和田でございます。本日は本当に寒い中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日は第3回目となります調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。検討委員会の開催に際しまして、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。

この検討会はさかのぼりますと、今年の3月に第1回目を開催いたしまして、その後、部会をこれまで3回行っております。あわせまして、行政視察も3回行っております。それらを含めまして、7月に第2回目を開催したところでございます。7月以降は計画の素

案についてパブリックコメントを実施したり、児童・生徒、それから、保護者の方々からのアンケートを実施いたしておりまして、その内容につきましては後ほど担当のほうから御説明を差し上げたいと思いますけれども、そういうことを経まして、今回が3回目の検討委員会の開催となりました。

このような中、本日はこれまでの検討経過を含めまして、学校部活動の地域への移行を進めるに当たりまして、今後の議論の進め方について共通理解を図るとともに、地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという意識の下、調布の地域資源を活用したスポーツ・文化芸術活動の機会の充実を図るための議論を行っていただきたいと考えております。

最後に、未来ある調布の子どもたちのため、また、子どもたちを支える教育関係者や地域の方々を含めた多くの関係者のために、委員の皆様方のお力を大いに発揮していただくことをお願い申しあげて、私の冒頭のあいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願い申しあげます。

○阿部委員長 教育長、ありがとうございました。教育長はここで失礼させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○大和田教育長 どうぞよろしくお願い申しあげます。

3 これまでの検討経過について

○阿部委員長 それでは、次第に沿って進めてまいります。次第の3、これまでの検討経過に移りたいと思います。

前回の検討委員会から児童・生徒向けのアンケートの調査やパブリックコメント手続きなど、これまでの検討の過程を事務局から説明をしていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（吉野） それでは、お手元の資料1を御覧ください。私からこれまでの検討経過について御説明します。

先ほど冒頭教育長からもございましたとおり、令和6年3月26日に第1回検討委員会を開催し、調布市における部活動の地域連携・地域移行に向けた検討がスタートしました。その後、検討委員会の下部組織として検討部会を立ち上げ、この間、3回にわたり会議を開催し、推進計画に関する検討を進めてまいりました。

先般7月26日、前回は第2回の検討委員会を開催し、推進計画案について御報告いたしました。その後、児童・生徒及び保護者へのアンケートやパブリックコメントを実施し、

意見聴取に努めてきたところでございます。

また、推進計画の検討に当たりましては、既に地域移行に取り組んでいる茨城県つくば市、静岡県静岡市、千葉県柏市に加えて、10月には新潟県長岡市と新潟市へ行政視察に行き、先行事例について研究を重ねてまいりました。

本日の検討委員会ではこうした検討経過を経て、事務局で取りまとめた推進計画についてお示しさせていただきますので、忌憚のない御議論をお願いできればと思います。

私からの説明は以上です。

○事務局（佐藤） 私からは、引き続き児童・生徒、保護者向けのアンケートの結果について御報告します。資料2をお願いいたします。

本年9月に関係者向けに、休日部活動地域移行に関するアンケート調査を実施しました。当初は中学校の生徒会向けと考えておりましたが、改めて広く意見を聞こうと考えまして、生徒に加え、今後対象になる小学生、また、保護者に対してアンケート調査を実施したところです。趣旨としては、対象者の意識を把握し、今後の取組を検討するということでございます。

回答数は、児童・生徒合わせて1,090件、保護者からは2,180件いただきました。時間も限られるため、本日は生徒と保護者の結果の一部抜粋を御説明させていただければと思います。

まず6ページをお願いいたします。生徒の地域移行についての認知度は23%となっております。また、その下ですが、地域クラブの活動への参加意向は36%が肯定的な意見、分からないと回答した割合も同様、36%います。

続いて、8ページをお願いいたします。希望する休日の指導者についてです。回答が多い順に、平日に所属している学校部活動の指導者、専門的な技能や知識・資格を持った指導者、指導する活動の経験がある地域の大人や社会人等となっております。

駆け足でございますが、9ページをお願いいたします。休日の学校部活動がどのような活動になるといいと思いますかという質問に対しては、友達や地域の人と一緒に楽しむことができる、技能が向上し、大会やコンクール等でよい成績等を修めることができる、通学している学校、または学校近くの施設で実施される順に回答が多くなっております。

続いて、保護者のアンケートについてです。10ページをお願いします。地域移行の認知度は6割ほどとなっております。

続いて、11ページをお願いします。地域クラブ活動の活動費についても御意見を聞いて

います。月に2,000円まで、また、4,000円までと回答した方が多くなっております。

12ページで現在の部活動における費用負担についてもお答えいただいておりますので、これらを参考にしながら、今後の会費の設定について検討していきたいと考えております。

以上、抜粋での報告となりますが、今日のアンケートを通じ教訓になるかなと考えている内容としては、まず児童・生徒ともに地域移行に関する認知度が低いというところ、イメージがあまりわいていないことから、地域クラブ活動への参加意向も分からないと回答した方が多くなっています。このことから、今後、取組の一層の周知が必要ととらえております。

また、希望する休日の指導者については、平日の部活動の指導者と回答する方が多いほか、専門的な資格を持った指導者と回答した方も多くなっています。今後、地域クラブ活動の指導者を確保していく上で、兼職・兼業を望む教員が指導できる仕組みを整備していくほか、技術指導ができる指導者の確保が課題となります。ただ、専門性を求め過ぎると指導者確保が難しくなることも想定されることから、そのバランスを検討する必要があると考えております。

今回のアンケート結果と前回、前々回に説明させていただいた令和4年度に実施したアンケート結果を基に、計画に生徒の意識として項目を追加しております。今後も生徒のニーズに対応した取組の検討を進めてまいります。

説明は以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。次第の5番のトライアル事業までざっと説明させていただいた中で、その後、質疑応答ということで、一括して質疑応答をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（佐藤） それでは、引き続きパブリックコメントの実施結果についての御説明をさせていただきます。資料3をお願いします。

本年10月7日から11月5日の1箇月間、パブコメを実施しましたので、その結果となります。意見は7人の方から10件いただきました。意見の概要は2ページ目からとなります。意見の概要を記載し、その右側に市の考え方を記載した資料となっております。意見の詳細につきましては後に御確認いただけたらと思いますが、いただいた意見のうち、計画に反映させたものがありますので、その部分について御説明したいと思います。

資料の3ページです。No.2から4、それと4ページのNo.6です。こちらが地域移行を進める上での受動喫煙による生徒の健康被害を懸念する意見となっております。この意見を

踏まえ、後に御説明させていただきますが、計画の指導者の量の確保及び質の向上の部分に受動喫煙防止の観点を追記しております。

また、活動会場については、基本的には市の施設を活用する場合には条例に基づき禁煙となりますが、今後、民間施設などを活用の場合にはこの受動喫煙の観点に留意しながら取組を整理していきたいと考えております。

その他の御意見については、今後の取組の参考にさせていただきたいと思っております。説明は以上でございます。

○事務局（吉野）　　続きまして、お手元の資料４を御覧ください。私から行政視察について御報告します。

検討委員会の事務局としましては、先行事例の研究を目的に、既に地域移行に取り組んでいる、もしくはこれから取り組む自治体の中で、それぞれ異なる運営類型の自治体５つを選定し、その運営の実態や課題などについて所管部署にヒアリングをしまいいりました。本日はその概要について、委員の皆様にご共有させていただきます。

まず、茨城県つくば市です。つくば市は、教育委員会にコーディネーターを配置して、各コーディネーターが各学校やエリアの特徴などを踏まえて、個別にクラブの立ち上げ支援をしておりました。まずは１学校１事例を目標に、総合型地域スポーツクラブや大学、民間企業など、様々な主体との連携による地域移行の事例創出に取り組んでいるのが特徴です。

なお、コーディネーターについては、市内にある筑波大学や地域の民間企業と連携し、人材の確保に取り組んでおりました。

次に、静岡県静岡市です。静岡市は、部活動に代わる新たな場として、シズカツという地域クラブを設置しています。シズカツは近隣校単位を１つのエリアとしてチームを編成し、その中の拠点校を中心に活動するクラブで、エリア内の学校の生徒ならだれでも参加できるというものです。運営は市の教育委員会から地域のスポーツクラブ等に委託する形態で、現在、実証期間として運用しておりました。

このほか地域連携の取組としてエリア制を導入し、拠点校方式による合同部活動や部活動指導員の確保に取り組んでおりました。

次に、千葉県柏市です。柏市は、一般社団法人柏スポーツ文化推進協会という任意団体が地域指導者の登録や研修、謝金の支払い、また、参加生徒の登録や参加費徴収など、地域クラブを統括する運営団体として全体の統括や訴訟対応を含む危機対応を担っております。

す。地域クラブは学校単位での活動を原則として、現状の部活動の構成に近い形が維持されるような仕組みとなっております。

指導員については、教員の兼職・兼業の仕組みを整え、地域クラブの指導者の6割は兼職・兼業の教員、そのほか4割が地域の指導者という状況でした。

また、休日の学校部活動を地域クラブとして実施する中では、学校内の貴重品や個人情報保護の観点から、校舎内のセキュリティーを整備し、外部の方がセキュリティーを解除できるエリアを限定するというような取組をしておりました。

次に、新潟県新潟市です。新潟市は、令和8年度以降は休日の部活動は実施しないという方針を既に打ち出しております。同市は特定の要件を満たした地域クラブに対して補助金を支出するということで、受け皿となる地域クラブの創出を支援しております。

また、地域クラブと生徒とのマッチングを促進するために、エリア別で体験会を実施しており、視察ではこの体験会に実際に行ってまいりました。

最後に、新潟県長岡市です。長岡市は、令和7年9月から休日部活動の地域移行の一斉実施をすべく、現在、その準備に取り組んでおります。立ち上げる地域クラブは学校と地域の連携・協働による新たな活動の場と位置づけており、勝利を優先するのではなく、あくまでも子どもたちの健全育成を優先する方向とのことです。

活動エリアは中学校区を基本に、中体連の各種目の専門部と協議して、部員数を考慮したエリア分けを検討中とのことです。

また、運営を統括する団体として、長岡市スポーツ協会が受け皿となるよう準備が進められており、指導者との契約や源泉対応を含む謝礼の支払いなど、事務局としての役割が想定されております。

また、文化系についても、長岡芸術文化振興財団が文化芸術活動の指導スタッフや活動サポートを募集するなど、スポーツ系と歩みを合わせる形で取り組んでおられます。

この点、長岡市教育委員会、スポーツ協会、芸術文化振興財団が連携し、地域人材の確保、育成など、充実した活動の実施に向けて連携協定を締結しています。

資料4の裏面に参考として御紹介しておりますが、連携協定を締結することで文化も含む地域クラブ全体の運営主体、いわば事務局としてスポーツ協会を位置づけるとともに、スポーツ協会及び文芸財団を支援団体と位置づけて、指導人材の確保を行うこととしております。

私からの説明は以上です。

4 調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画（案）について

○事務局（佐藤） 続きまして、私からは4番の推進計画の案について御説明をしたいと思います。資料5－1と5－2を併せて御覧いただけたらと思います。計画の内容については前回の検討委員会で詳しく御説明させていただきましたので、本日は前回の検討委員会から修正した箇所を中心に御説明させていただきます。

まず、資料5－1は、前回の検討委員会から修正した箇所を新旧対象の形で示したものです。資料5－2は、それと対応し、修正がある箇所は朱書きで記載している計画の本編となります。

では、資料5－2の計画の本編について。

まず、4ページから11ページになりますが、こちらはグラフや表の時点更新に伴うものです。多くは令和5年度時点のものを令和6年度時点のものに更新したのになります。数字が変わった以外に内容に大きな変更は生じておりません。

続いて、13ページから17ページをお願いいたします。この部分は生徒の意識を記載した新たな箇所となります。先ほど説明したアンケート調査に加え、令和4年度の調査結果も踏まえ、現状を記載しております。

13ページに少し文章を書かせていただいているのですが、まず令和4年度のアンケート調査では、部活動に所属する目的について、友達と楽しく活動できるが最も多く、次いで、体力や技術を向上させることができる、大会・コンクール等でよい成績を得ることができる、チームワークや協調性を身に付けることができるとなっております。競技志向を求める生徒がいる一方で、エンジョイ志向の回答が最も高い結果となっております。

また、休日の部活動が地域移行した場合、現在取り組んでいる種目以外にどのような種目の活動をやってみたいと思いますかという問いに対しては、次の14ページに記載がありますが、運動系、文化系ともに様々な回答をいただいているところです。現在ある部活動を地域クラブに移行することはもとより、生徒の多様なニーズに対応した活動機会の確保も求められると思います。

また、部活動が地域移行されることの期待としては、指導の専門性や活動の選択肢が増える、地域との交流などが挙げられた一方で、不安としては、平日と休日で指導者が替わる場合があること、希望する活動があるのかということなどが多く、また、金銭面での負担などの回答も一定数ございました。

これに併せて、先ほどの今年度実施したアンケート調査の結果も踏まえ、最後の結びとしては、今後、生徒の意見を踏まえた取組を検討する必要があると記載させていただきました。

14ページ以降にアンケート調査の結果について、グラフ等を掲載させていただいております。

続いて、18ページをお願いします。2番の推進目標についてです。前回までは、目標は令和9年度からすべての休日部活動において地域連携か地域移行を実施とありましたが、今後、施策を推進する上で様々な課題が出るのが想定されるとともに、予算も伴う内容ですので、ここまで言い切るのではなく、少し現実的な内容として記述を見直したのになります。とはいえ、可能な限り早期にしておりますので、前回と変わらぬスピード感を持って取り組んでいきたいと考えております。

続いて、22ページをお願いいたします。まず上段①の指導者の量の確保についてです。もともとは専門的な技術指導ができるという表現でしたが、目標年次を見据えて指導者の確保を進めていくためには、この専門性というものを前提とするのはなかなか難しいかもしれないと前回検討委員会で御意見をいただいたところです。今後、生徒の活動の場を確保することを最優先とするため記載を改めたものです。ただし、生徒のニーズに合わせてとある通りに、一定程度、技術指導ができる人材の確保が必要なため、今後、対策を検討してまいりたいと考えております。

続いて、下段の②番、指導者の質の確保についてです。こちら、先ほどのパブリックコメントの説明の際に御案内した箇所となります。生徒の心身の健康管理の部分に受動喫煙の視点を追記させていただきました。

続いて、26ページをお願いします。第5章の計画期間における主な取組のうち、5番の地域移行に向けた取組についてですが、前回の検討委員会で委員から御意見をいただいたとおり、教員の兼職・兼業の仕組みづくりについて検討する旨を追記させていただいております。

最後に、30ページです。参考資料編に記載を予定している項目を新たに追記しています。こちらについては、この項目を基に確定のタイミングまでに内容を盛り込んでいきたいと考えております。

主な修正点については以上です。このほか軽微な文言修正が主となっておりますので、御了承ください。

説明は以上でございます。

5 トライアル事業について

○事務局（吉野） それでは、続いて、トライアル事業について御説明します。お手元の資料6－1を御覧ください。

先ほど御説明がありました推進計画の28から29ページのロードマップにございますとおり、令和9年度という地域移行のいわばスタートラインとなるタイムラインを目指して、トライアル事業を実施しながら、運営体制、施設管理、学校や指導者との連携など、様々な観点から成果と課題について検証いたします。

前回の検討委員会において大枠の予定は御説明しておりますが、今回は各取組について、おおよそ調整が取れましたので御報告いたします。

まず、地域連携のトライアルとしては、休日の部活動における合同部活動を実施いたします。団体競技の一部において、1校でのチーム編成が困難な状況もございますので、資料に記載のある各部活、各学校による合同部活動を実施することで子どもたちの活動機会の確保を図ってまいります。

なお、合同部活動自体が既に各学校連携の下で取り組まれているものもございますが、今回は市にゆかりのあるトップスポーツチームであるF C東京及び読売巨人軍と連携し、競技力向上の練習会を開催いたします。

こうした合同部活動を実施する中で、各学校の状況をモニタリングし、学校現場で生じる業務の可視化や課題の整理などを行いながら、次年度以降の取組につなげてまいりたいと考えております。

次に、地域移行に向けたトライアルとしては、地域クラブ活動のモデル実施をいたします。こちらは地域クラブ活動ですので合同部活動とは異なり、市立中学校所属の生徒であれば、どなたでも参加できる仕組みといたします。具体的な種目としては、運動系においては、生徒の多様なニーズに対応するため、既存の部活動にない活動として多種目スポーツ、いわゆるマルチスポーツとスポーツクライミングを実施いたします。

まず、多種目スポーツは、検討委員会の委員である玉川大学の阿部准教授と同大学の学生に御協力いただき、ニュースポーツを中心に複数の種目を緩く楽しく体験する活動を実施いたします。

また、スポーツクライミングは西調布にありますクライミングジムに御協力をいただき、

初心者向けのクライミング体験を実施いたします。こちらは資料 6－2 で既に学校のほうには周知している内容でございますので、詳細はこの 6－2 を御覧いただければと思います。

続いて、文化系につきましては、既存部活動の地域移行に向けた検証を行うため、第六中学校囲碁部について、調布市囲碁連盟から委託を受けた講師が指導し、かつ教員の顧問が常駐しない形で外部指導者による部活動運営を実施し、成果と課題を検証いたします。基本的には平日に実施いたしますが、現在、休日実施の可能性も含めて検討しております。

これらトライアル事業の実施を通して、その効果の把握や課題の洗い出し、検証などを行いながら、地域移行のモデル、いわゆる調布モデルについて検討していきたいと考えております。

説明は以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。

次第の 3，4，5 と続けて、説明していただきました。ここで質疑応答、また、意見交換の時間とさせていただければと思っております。

これまでの説明の中で御意見、御感想、あとは短くて構いませんので、何かあれば御意見等をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。では、門脇さん。

○門脇委員 すみません。スポーツ協会の門脇と申します。よろしくお願いいたします。

これまでの会議のように、いろいろ御意見をいただきたいのですが、我々スポーツ協会がコーディネーターや人材確保などを担っていくということで、改めて推進計画について確認をしたところです。

この間、私も視察に行かせていただきまして、新潟県長岡市へは行けなかったのですが、長岡市はスポーツ協会が同じような形で取り組んでいるということで、頂いた資料を確認させていただき非常に参考にさせていただきました。

スポーツ協会の加盟団体、スポーツ指導員、スポーツボランティアが様々な活動をしておりますので、我々が持つノウハウを次世代を担う中学生の部活動移行に関してお役に立てればと思いますので、しっかり対応していきたいと考えております。

また、我々スポーツ協会もそうですが、組織の制度改革といいますか、かなり責任が重い業務と認識しておりますので、前回もお話ししましたが、改めて人員の確保、業務に伴う予算確保などについては、協議を継続させていただきたいと考えております。先ずそれが 1 点です。

もう一点ですが、これは前回質問の仕方が悪かったのですが意見をした件です。地域移行・地域連携について、生徒や保護者にしっかり理解をしていただくというところ、我々スポーツ協会だけでは担うことができませんので、その点については教育委員会を中心に、丁寧な説明をしていただきたいと考えております。

令和9年度以降、地域連携か地域移行を実施していくことになりますが、すべて我々スポーツ協会が担うということではなく、教育委員会やスポーツ振興課との連携は不可欠で、我々だけでは業務が滞りますので、令和9年度以降も引き続き連携、協力を是非お願いしたいと思っています。

大きく2点、改めてのお願いということで、よろしくお願いいたします。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございました。この件について、事務局のほうから何かありますか。

○三井委員 すみません。指導室の三井と申します。

2点目の学校、教育委員会との連携なのですがけれども、今までもこうした先進事例の視察に行ったりして、例えば、長岡市、資料4の一番右側にあるのですがけれども、教育委員会と4者が協定を結んでといったような内容であったりとか、学校、教育委員会と地域との切っても切り離せない動きになってくると思うのです。実際に地域移行をしたとしても、舞台は学校の体育館だったり、グラウンドを使ったりを絶対に考えないといけないところなので、その辺、施設担当だったりとか、教員も兼職・兼業については、我々指導室が見ておりますので、そういったところに絶対切っても切り離せないというような中身なので、別に全部お願いしますということではないのです。

あと、児童、保護者に対してのアンケートを取るのであれば、そこで端末を使ったりとか、そのほうが早いですし、集計も早いですから、そこは御安心していただければと思っています。移行したからといって、学校が手を離すことではないと。2点目はそういったところのお話でございます。

○阿部委員長 では、山岸さん。

○山岸委員 スポーツ振興課の山岸です。よろしくお願いいたします。1点目のスポーツ協会の体制ということでございますが、市の管理団体としてのスポーツ協会の直接の所管課であるスポーツ振興課の立場として発言をさせていただきます。

スポーツ協会、推進計画の中で、地域移行コーディネーターとして、地域整備、移行を

対応している市といたしましても、協会さんであったりだとか加盟団体との連携により、先ほど申しあげましたスポーツ指導者のボランティアがお持ちの技術指導や始めているノウハウや、あるいは指導者の学校や地域部活動の運営団体とマッチングできる人材バンク的な役割につきまして、スポーツ協会に大いに期待するものがございます。

この計画が策定されて、運動部活動の担い手はスポーツ協会になりましたということで終了する単純な話ではございませんので、本計画を持続可能な計画として遂行するために、スポーツ協会の体制の強化につきましても、引き続き議論、連携をさせていただければと思います。

私からは以上であります。

○阿部委員長 ありがとうございます。この件以外にも何か御意見、御質問でも構いませんが、何かございますでしょうか。

○徳永副委員長 今のに関連して、私もこの行政視察につきましては、各行政視察に行った後に、お土産もちょうだいして、いろいろな報告を受けました。その中において言うと、資料4の裏面で流させてもらった案内などもされておりますけれども、私もスポーツと文化を両方所管している部署におりますので、おのおのが別々に動いてもしようがない。こういった同じ傘の中で一緒にやっていくことで、同じ方向性も向きますでしょうし、そういった事務の一元化をすることによって、様々な財政的なものも含めて、そういった負担も軽減されるでしょうしというようなことを考えると非常に参考になった例かなと思っておりますので、ぜひこういったものをしっかりと勉強させていただきながら、調布モデルといったものができればなというのをちょっと感じた次第であります。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。

○菰澤委員 調和SHC倶楽部の菰澤です。

地域スポーツクラブで、今、いろいろな競技を扱っておりますし、子どもから市民までというところで、部活が教員の負担というようなこともあるのですけれども、子どもたちの体力や免疫力とか、いろいろなことが阻害されないようにするのが部活だったり、スポーツだったり、文化活動だったりというところがあるので、そこを一番に考えて、指導者だったり、予算だったり、いろいろあると思いますけれども、子どもたちが一番楽しく活動できるような場面づくりをしていただければと思います。

以上です。

○阿部委員長　ありがとうございます。子ども中心というところで、今、御意見がありましたけれども、そのほか何か御質問、御意見等ございますでしょうか。では、阿部先生、よろしくお願いします。

○阿部委員　前回、生徒のニーズを踏まえた環境ということで、最後、まとめさせていただいたと思うのですが、すごく生徒のニーズ、今多様になっていて、勝利というか、技術を身に付けたい子もいれば、友達と楽しくやりたいという子がいて、なかなか生徒のニーズにこたえるのが難しいんですけれども、調布は調布でできることを行っていくという姿勢がすごく見られたので、すごくいいかなと思います。

あとは、マルチスポーツクラブをトライアルとしてやらせていただくのですが、今回は1つというか、月1回という形でやらせていただきますが、トライアルが成功して、次年度以降となった場合に、やはりスポーツ推進委員さんですとか地域団体、地域スポーツ団体等との連携も必要になってくるかなと思いますので、よろしくお願いします。

あと、マルチスポーツクラブを考えると、やはり利用施設の調整ですとか、開放だったりとか、いろいろな部活動の調整がすごく難しいのだなというのは思いました。というのは、場所も毎回変わるような形でやるということで、今後、地域クラブになった際に、そういう既存団体ですとか、部活動との調整というのがすごく課題になってくるのかなと思って聞いていました。

以上です。

○阿部委員長　ありがとうございます。そのほか何か御意見はありますか。

○葦澤委員　いいですか。直近で言うと、12月12日に調布中でありますけれども、これ、見学とかに行ってもいいのですか。

○事務局　はい。

○葦澤委員　何をするかは決まっていますか。マルチスポーツとか。

○阿部委員　マルチスポーツクラブということで、私のゼミの学生がそれぞれ専門種目を持っておりまして、具体的に言うと、ダンスが1つ。それから、以下の3つの中から2種目と思っていますけれども、ベースボールゲーム。ベースボール5。新種目。要は手打ち野球。皆さん、子どものときにやられていた手打ち野球が今、国際ルールができて日本代表ができて、日本代表は侍ジャパンと名乗れるぐらいのベースボール5という種目があって、それをやる回と、あと、ネット型として、ソフトバレーボールとか。あと、ボール型でスリー・パイ・スリー。昔、スリー・オン・スリーと言っていた3対3のバスケット

ボール。それから、フットサルというような、部活動ではないけれども、ニュースポーツという形のことが体験できるかなというふうに思っております。ぜひ皆さん、御見学、あるいは一緒にやりましょう。

資料6－1のところに種目に関して書いてありますが、このような形で小学校ですとか、中学校に行って、マルチスポーツ活動ということでやらせていただきますので、その発展系ということでやらせていただきたいなと思っております。よろしくお願いします。

○阿部委員長 ありがとうございます。ほか。では、門脇さん。

○門脇委員 パブリックコメントの件ですが、タバコの受動喫煙についての意見がありました。参考に教員の皆さんはどうされているのでしょうか。

○教育委員会 学校は禁煙ですので、先生方は基本的に我慢しているという考え方です。

○阿部委員長 そのほか何かございますでしょうか。川端委員，どうですか。何か。

○川端委員 資料がすごく多くて、印象としては、児童・生徒のアンケートの中で地域移行に関する認知度が低いので、これでアンケートを取ってもなかなか本当に思っていることが拾えるのかなというのがちょっと第一印象としてありました。引き続きいろいろ児童・生徒にヒアリングなどを行って、御意見を吸い上げていかないとだめだなというような。

先ほどの御意見を、ごめんなさい、ちゃんと全部は見きれていないですけれども、特に今まで我々が考えていた以上というか、予想を反する意見というのがあまりなかったのです。なので、本当はもう少しそういうものが出てくるかなとも思ったのですけれども、まだまだちょっと足りないのかなという気はしました。

あと、このトライアルとかをやっていた中で、いろいろよさとか悪さとか補う点とかが出てくるでしょうから、それを見て改善していくというような形になってくるかなと思いました。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、トライアルの話もありましたけれども、今年度、文化的なトライアルもやるということですが、基本的にはスポーツが中心という形になってくるのかなと。7年度以降のトライアルの事業の可能性みたいなもの文化的なところも、例えば、連携ですとか、あと大学だとか等々、いろいろなできないこともあったりします。そういったところとの連携なども視野に、今後、何かこういうことをしていけたらいいかなと。可能性があれば。できれば、文化生涯学習課長の渡辺委員から話を伺えたらなと思います。

○渡辺委員 文化部に係る連携に向けましては、この計画案に掲載されています生徒を対象とした令和4年12月に実施したアンケート調査結果などを参考とし、その中で次年度予算要請と連動しまして、市立中学校8校で最も今、文化部のベースの割合の高い吹奏楽やブラスバンド、合唱等の音楽関連の部活との連携というものを想定する中で、この間、桐朋学園大学の教授とも相談をしまいいりまして、大学側としても学生が生徒を指導する機会を通して、新たな学びにつながるという考えをお示しいただきましたことから具体的な金額を積算しているような状況になります。

あわせて、パソコンプログラム、科学といった分野への生徒の意向調査。生徒の意向も踏まえまして、同じく協定を締結している電気通信大学と相談をする中で、桐朋と同じく、学生による指導を見据えた検討を次年度に据えていくということにつきまして御容認いただいたところです。

現状、大学が主導で、生徒・児童を対象にした様々な取組を行っていただいておりますので、そうした事業との関係性を整理しながら、具体的な検討につなげていければと考えてございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。今後、具体的な検討をしていくというような話がございました。

先ほど資料の説明で、視察のもので長岡の例などを見ていると、スポーツ協会と芸術文化振興財団が連携しているというような取組になってきていると思います。この辺、こういった情報は文化・コミュニティ振興財団さんのほうには何かいろいろ入ってきたりしていますか。

○藤堂委員 実際にはあまりつかんでいないというのが正直なところなのですが、長岡のほうの話を知っていて、長岡のほうでは文化芸術の財団等がどのようにかかわってきていることを知りたいなと思いました。

○阿部委員長 何かこのところつかんでいる、どうですか。

○事務局（吉野） 長岡の特徴としては、ここの資料にも書いてありますけれども、教育委員会の中に部活動地域移行室というものを設けて、課長さんがスポーツ協会の理事を兼ねるという形のようなのですが、それと同時に、元財団にいた方が文化芸術のほうの部活動地域移行の担当として着任されて、そういう意味で、スポーツ・文化というところを張り付けながら調整していると。財団出身の方というところもあって、前のことを実施されているようでしたので、文化系の人材の確保というところにも具体的に取り組ん

でいて、同じ室の中で取り組んでいるというように伺っております。

○藤堂委員 指導者の方をかかえているというか、そういう人材バンク的に管理されているという感じですか？

○事務局（吉野） そうですね。同じシステムの中で、多分文化・スポーツというところをそれぞれの領域の方に人材バンク登録を促して、それぞれの部門から指導者を囲っていくという取組をやっているというところはお話ししておりました。

○阿部委員長 またいろいろ詳細が分かったら、その辺情報提供をしていただきながら、今後はやはり文化・コミュニティ振興財団さんが核となる組織になりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○藤堂委員 文化系のところでちょっとお伺いしたいのですけれども、今、このアンケートを見て、たしか演劇部があるのは市内で三中さんだけで、部員の方も14人ぐらいと前回の資料に載っていたのですけれども、ここに、ほかの活動をやってみたいというお子さんが81人いらっしゃるという数字が案外多いなとは思ったのですが、これが例えばどういった地域。三中の付近にいるのか。それとも、せんがわ劇場の近くにいるのか。このようなデータもあるのでしょうか。

具体的に財団が何かかわっていきこうというのは多分演劇だと思っているのですけれども、そのときにどういうところへ行ったらいいかという、文化部は休日に活動されているところが23%となっているけれども、実際どの部活か。例えば演劇部は休日までやっているほど盛んなのか。いや、実はそうではなくて、それほど熱心に指導を行わなくてもいいと思われているのかとか、そういった現状みたいなものは把握されているのでしょうか。

○阿部委員長 その辺、事務局のほうから。

○事務局（佐藤） まず、このアンケート結果の地域の分布というのは取れていないのが現状になりますので、総体で81人というところしか取れていません。

あと、23%が休日部活動をやっているというところも、詳細のお答えが今、手元にはないのですけれども、ほとんど吹奏楽部です。あと一部、合唱部があったりとかというのが現状なので、取組を進めるに当たって、まず休日の部活動を地域移行していくという観点から言うと、まずは吹奏楽ですとか合唱ですとか、そういったところが優先になってくるのかなと考えています。

○事務局（門田） ちなみに今お話しいただきました三中さんはすごく活発でということなのですけれども、まさにそのとおりで、三中さんの演劇に関しては休日も活動されて

います。

○阿部委員長 ありがとうございます。

○小林委員 指導室長です。小林です。

1つ話題になったところで、教職員の兼職・兼業に関しての今の状況についてお伝えさせていただくと、本市の場合、土日を中心に、まず休日を移行していくということになると、当然教職員がどこで兼職・兼業をするのかということになるので、つまり住んでいる近くでやりたいのか、それとも勤務しているところでやりたいのかというところで、それぞれの生活とかスタイルに合わせて、そこを選択できる市となると、現状、今、課題になっているのは、恐らく本市の中だけでは完結しない。本市でお勤めの方々、比較的近隣に住んでいる方も多いので、お住まいのところの自治体とも協議を進めていく必要があると考えています。

現状としましては、月に1度、私どものような立場の指導室課長が集まる会がありますので、そちらでも部活動に関する兼職・兼業について、今、話し合っているのですけれども、それぞれの地区で兼職・兼業を認める基準というのが少し変わってきているので、例えば、厳しいところで言うと、月の勤務時間がある程度コントロールされていて、兼職・兼業したことによって、いわゆる一定の基準を超えないかどうかで判断しているようなところもありますので、その辺りはやはり近隣さんと調整をしながら、教職員が実際にやりたい場所で部活動にかかわれるようにしていく必要があるなと考えていまして、今、そのような話し合いをしている最中でございます。

あわせて、今、皆さんのお話を伺っていて、私自身もできれば、そういうことが可能であればいいなと考えているところでありまして、御提案というか、お伺いなのですけれども、実際、今、お話をいただいているところで、視察に行っているメンバーについてはいろいろな自治体の先行事例を聞いたりとか、あと、それぞれの所管で御担当の相手と情報を共有したりするということはあると思うのですけれども、例えば、今、話題になりました他自治体の実例であるとか、あと、今回トライアルにも関連しているF C東京さんとか、企業の方々、それから、友好協力協定大学のところで実際にどんなことができるのだろうかとか、今現在どんなことをやっているのかということを私自身も直接聞いてみたいなという気持ちにはなってきたのです。

それで、要綱をちょっと確認してみたところ、実際は、例えば、要綱の第6の会議のところ、検討委員会の運営上必要があると認めたときは委員以外の者を検討委員会に出席

させるという要綱があるので、皆さんの中で同意が取れば、別に直接来ていただく必要はなく、オンラインでも構わないのですけれども、次の回にどこか大学でもいいし、企業でもいいし、ちょっと招へいして、実際お話を伺っていくようなこともやってみると、私たちのイメージもどんどん膨らんでいくのではないかと思います、その件については、実際、今後、検討していただけるといいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○阿部委員長 事務局、何かありますか。

○事務局（門田） まさにこの場で共通認識を図っていくという1つの手段としては有効な手段の1つになり得るかなと、今、お話をお伺いして感じたところですので、今後、事務局の中できちんと整理をして、実現可能な方向で持っていけそうであれば、ぜひそういった機会をつくっていきたいと思っております。

○阿部委員長 ありがとうございます。本日はこういった実際の推進計画があるところなり、あとで決定していくというところが一番メインということになってきますけれども、今後についても、今、いろいろお話があったみたいに、もう少し細かい部分も含めていろいろ詰めていく必要があるのだらうなと思っておりますので、その辺を考えながら進めていければと思っております。

まだちょっと時間もありますので、もし御意見等があればいただければと思いますけれども、川端委員、どうですか。何かありますか。

○川端委員 ありがとうございます。今、現状、学校で平日部活動をやっているではないですか。今、休日に移行しようという話でしたけれども、今やっている平日の部活動の取扱いはどうようになっていくのかなというのがちょっと気になっています。毎日運動したりとか、バスケット部だったら。平日、学校で部活ができないというようなこと。ごめんなさい。つつこんだ話をしてしまっ。

○事務局（門田） いえいえ。まさにこれから議論に上がってくる内容になるのかなとは認識しています。まずは休日部活動を地域連携・地域移行していった中で、平日の活動が現状の部活動と大差なくというところとちょっと語弊があるかもしれないですけども、子どもたちの放課後の活動をこれまで以上に充実させる取組というのは考えていかなければいけないなと思っておりますので、最終的にゴールイメージといったところでは、まずは休日の移行で課題なり成果を分析していった上で、調布としての平日の子どもたちの活動の場を持続的に確保していくスタイル、在り方というのは、その段階で1度、検討を入れていきたいなと思っております。ちょっとお答えになっているかどうか……。

○川端委員　　いやいや、分かりました。アンケートを見ると、休日学校部活動を地域主体のクラブに移行したときにだれに指導してほしいですかと聞くと、２番目に平日に指導している方というアンケートの回答が出ていたりしているので、そういうところも踏まえながら、平日も考えなければいけないのかなと思った反面、長岡市の行政視察の中にも、平日の学校クラブは休日の地域クラブの補完的位置づけとするという文面が書いてあったので、こういった方向でも休日のクラブ活動ができるのかななどということもありまして質問させていただきました。ありがとうございます。

○阿部委員長　　ありがとうございます。ほかに何か御意見等ございますか。——そうしたら、全体の総括的なところで阿部先生に総括をいただければと思います。

○阿部委員　　前回も代表させていただいたのですけれども、調布だからできることを、これだったらできそう、このぐらいから始められそうというのを集めて、調布モデルとしてやっていきましょうということで、今日、実際に調布モデルというワードが入っていたのでいいのかなと思うのですけれども、長岡市さんの事例というのは、数少ない好事例だと思います。大体の自治体が失敗したり、トライアル期間ではあるのですけれども、まだうまくいかなかったり、地域とスポーツ協会とうまく連携が取れなかったり、教育委員会だけではなく、学校に押し付けたりとか、いろいろそうでもない事例がある中で、国の流れも今、すごく緩やかになっていて、移行期間が令和13年までに延びたというのが本日の報告でありましたけれども、それがきしくも調布さんの調布モデルにそういう形になってきた。国はもっと急いでやるべきだということで、令和7年、8年とか出ていたのですけれども、それが13年まで延びるということで、調布モデルにちょうど合う形になって。調布は調布でもう地に足を付けてやっているのです、今の調布モデルを生かしながら、調布だからできることを生かしてやっていくべきだなと思います。

長岡市の例は例として、それをそっくりそのまま調布でやるということは多分できないかもしれませんが、4者の連携というのはすごく調布でも取り入れるべきところかなと思ひまして、話を聞いていました。

あとは異年齢交流のところ、今回大学生が入りますけれども、さっきの文化部の桐朋音大さんとか電通大さんというところの調布の地元の大学さんとの連携、それから、大学生と中学生の交流というのもすごくいいですし、いろいろな形で、地域の方も団体だけではなくて、個人の地域の方も巻き込みながらできるといいかなと思って聞いておりました。

以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。調布ならではの資源を生かした形で、やはり調布モデルというものをある程度しっかりと進めていければなと思っております。

この間、いろいろな御意見等があった中で、実際には今後中学生が部活の地域連携・地域移行の主役になってくるといふところの中では、山田校長先生、何か御意見、御感想とかいかがですか。

○山田委員 第七中学校校長の山田でございます。皆さんの意見を伺いながら感じたことを少しお話しさせていただければと思います。

まずは阿部先生から先ほど御提案いただいた、いろいろな地域の取組。参考にするといいことの意義、勉強になるのではないかなと思って伺わせていただきました。これからもまた視察は計画されているものなののでしょうか。だとしたら、もうちょっと中学校数がうちと同じぐらいの規模の行政の状況はどうなのかなというのがいろいろ説明とかを見せていただいてから思いました。8校しか公立中学校がないので、そういう中でできることとはちょっと違う部分もあるのかなと感じたところです。

あと、川端委員からお話があったように、子どもたちの平日部活動の運動の場の確保というところで感じたところが今、クラブチームに行っている子たちが結構多いです。サッカーのクラブチームだったり、野球のクラブチーム。そういうところは平日には1回ぐらい、あと土日の活動だから、平日4日間、空いてしまう。だから、平日だけ部活動に入れてくれという子たちが現実にたくさんいます。

大体そういう子たちが入っているのがうちで言うところと陸上部とか卓球部とかにそういう子たちは流れていってしまうところがあって、だから、そういう子たちは平日は活動に参加するのだけれども、土日の大会に参加しないということだと、チーム競技に入ってこられてしまうと、逆に部活の指導がやりづらいということもあったりしているのが現実ではあります。ただ、それを認めてあげないといけないところもあるし。

中体連にするにしてもクラブチームに参加していると、二重登録になってしまう。具体的にこういうのがうちの学校でありました。ハンドボールのクラブチームに入っていました。それは中体連にも加入しているクラブチーム選手として大会に参加して、上位に入賞する。陸上部でも。私、たまたま、そちらでも大会に出られないかと模索したのですけれども、中体連は2つの競技団体で参加できないという制限があるというところがあって、それも課題だなと考えているところがあります。

ただ、平日に活動する競技と休日に活動する競技。平日は学校でこういう部活をやっている、休日はこっちをやっているの、大会に両方出たいとなったときには、そこがネックとしてなってくるころかなと思いました。

○阿部委員長　　ありがとうございます。

○山田委員　　現場としては中学生というところでは、指導教員のお話がありましたけれども、6年でどうしても教員が異動してしまう。今、開設している部活動をどうやって持続させていくかというところが毎年毎年の課題になっていますので、そこら辺についても慎重に検討していきながら部活動改革を推進していただければと思います。

○阿部委員長　　ありがとうございます。今、山田校長先生からのいろいろな課題等も含めて、いろいろお話をいただきました。また、阿部先生からは調布市モデル。それぞれの地域資源というのは各自治体によって違いますから、そういうものをいかに生かして、それを取り込むのかというところがやはり必要になってくると。

そうした部分を考えるに当たっては、今後、例えば、次年度以降、部会などをつくっていくとかというような手法が必要になってくるのではないかなと、今、いろいろ話を聞いている中では思ったところです。

先ほど指導者の確保の問題もありましたし、あとは教員の兼業というところの教員の在り方、働き方改革というところもありますし、そういうところも含めて、今後、そういった部会みたいなものを具体的に、在り方部会などを検討していくとか、そのような手法というのを何か事務局では考えていらっしゃいますか。

○事務局（門田）　　様々御意見、御提案等もいただき、ありがとうございます。先ほどの山田委員のお話の中で、これまで我々事務局が先行自治体を視察してきた中で実際に見てきたのは組織体をどのように立ち上げてきたのかといったところであったり、まずは休日の活動をどのように移行していったのかという視点で先行している自治体を多く見学させていただいた経緯があるのですけれども、まさに山田委員であったり、川端委員であったり、御指摘いただいた、では、平日にどのように移行していくのかという、その次の段階にどのように取り組んでいくのかという視点で先行している自治体を見ていかなければいけないかなというのは今、事務局の中でも課題としては持っているのです、そこは1つ、今後の調布モデルとして重なってきた内容を今度は平日にどのように組み替えていくか。そういったところは検討して取り組んでいきたいなというのはあります。

また、先ほど委員長のほうからありました、今後、部会も立ち上げてというような話な

のですけれども、今回トライアル事業で実際に地域クラブ活動を運営していく中で、様々な運営上の課題であったり、もちろん取組の成果というのもあると思うのですけれども、それについては改めて事務局の中で分析をして、上がってくる課題に対して、例えば、どこの部署で課題の解決に向けて取り組んでいくのか。そういったことも精査していかなければいけないかなと。実際に検討していく。論点を整理していく。パートごとに分けて、役割分担というところでも今後そういったすみ分けをしていかなければいけないのかなといった認識ではおります。

○阿部委員長　ありがとうございます。そのほか何かこれだけは言っておきたいというようなものとかございますか。——本日、様々な御意見をいただきました。また、感想もいただきました。ありがとうございました。

本日の目当てというか、目的という一番重きを置いているところでありますけれども、資料5になります。計画（案）です。こちらにつきましては、事務局からも説明をいたしましたけれども、パブリックコメント等の意見も踏まえた中で、今回、少し修正を加えたというような流れになります。これにつきましてはこの場で決定というよりも、ここで議論をいただいた内容を我々、来月の教育委員会の定例会の協議題として出して、そこで教育委員会としてまず決定をしていきたいと考えています。

また、本日いただいた意見の最終的な調整等につきましては、若干何か微修正のようなものがあれば、これはもう事務局一任ということでやらせていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

ありがとうございます。それでは、了承ということで進めさせていただければと思っております。

それでは、次に進みたいと思います。

6 今後の進め方

○阿部委員長　次、次第の6、今後の進め方に移ります。それでは、事務局、お願いいたします。

○事務局（佐藤）　資料7をお願いいたします。今後の進め方についてです。

上段の丸印の部分になりますが、まず、先ほど委員長からもありました令和6年12月の教育委員会の決定を受けて、この推進計画を策定する予定でございます。今後は推進計画

に基づき、地域連携を進めることと併せて、トライアル事業の実施による成果と課題の検証を進めながら、地域移行の調布モデルを検討してまいります。

また、令和7年度以降は検討委員会や、先ほどもありました検討部会ですね。テーマごとの部会においてトライアル事業のモニタリングを始め、調布モデル構築に向けた様々な論点について検討し、取組を進めてまいりたいと考えております。

詳細の日程は記載の表のとおりとなります。

なお、第4回の本検討委員会につきましては、令和7年、来年の3月26日水曜日を現時点で予定しておりますので、年度末の御多忙の時期に大変恐縮なのですが、御予定いただけたらと思っております。

説明は以上でございます。

○阿部委員長 ありがとうございます。今、今後の進め方につきまして、事務局から報告がありました。この進め方に沿って進めていくということで、皆さん御了承いただけるということでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

ありがとうございます。それでは、次回につきましては事務局から説明があったとおりで、令和7年3月26日ということですのでよろしくお願いいたします。

7 その他

○阿部委員長 それでは、その他に入ります。次第の7番、その他。事務局からよろしくお願いいたします。

○事務局（佐藤） 事務連絡が1点ございます。前回と同様に、今回の会議結果についてはホームページに公開を予定しておりますので、会議の公開前に1度、議事録の案を皆様に御確認いただく機会を設けますので、よろしくお願いいたします。

事務連絡は以上です。

○阿部委員長 ありがとうございます。

本日は皆さん、進行に御協力いただきまして、誠にありがとうございます。スムーズにしっかり進行することができましたので、ありがとうございました。

8 閉会

○阿部委員長 最後に、この会の閉会に当たりまして、生活文化スポーツ部長の徳永よ

りごあいさつをいたします。

○徳永副委員長　　本日も貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。先ほど山田委員からもありましたが、今、野球ではプレミア12というのをやっております。その中の選手の1人で、日ハムの五十幡という選手がいるのですけれども、彼は足でプロ野球選手になったような選手で、中学時代にはサニブラウンに勝って日本一になっているような選手なのです。ですから、そういった中学時代というのは、どんなスポーツにでもまだまだ行ける要素があるという児童・生徒の皆さんなのかなと思っていますので、ぜひそういったものを調布モデルの中に組み込んでいければなと思いながら、今日、私のほうでお話にかえさせていただきます。

今回、第3回目になりますけれども、第2回が終わりまして、第3回、今回に至るまでの間に、私どもも特別職に説明の機会をいただいてご説明しております。その中においては、今現在における課題、どんなものがあるのだなどというお話もいただいて、事務局からも説明させていただいております。

そして、特別職からは、今、国がいろいろなスケジュール感の話をして、先ほど阿部委員からありましており、延びたということもありますけれども、この7年、8年やっていくのだというようなイメージがすごくありましたが、特別職も、あまりそこにこだわるなど。スケジュール感というのは、しっかりと議論した中で調布モデルといったものをつくっていくべきなのだというようなものがありましたので、今日の資料の5－1だったと思いますけれども、その中で少し表現、目標値の見直しといった中で伝えさせていただいている内容もございます。そこについては、先ほど事務局からもスピード感を持ってというような説明もありましたけれども、そこは私たちもしっかりやっていけるかなと思っていますので、よろしくお願いします。

今後におきましても、今日のお話でもあったとおり、児童・生徒ファーストでやっていくことが大事だと思っておりますので、そこに向けましては、ここにいらっしゃいます委員の皆様のお力をちょうだいしながら、今後ともよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○阿部委員長　　ありがとうございました。今、徳永副委員長からもありましたし、あと、先ほど菰澤委員からもお話があったみたいに、やはり主役は子どもたちなので、そこでいかに今後の部活動を子どもたちのためにどのようにしたらいいかというところがやはりポイントになってくるのかなと。そこが一番重要になってくると思っていますので、今後ま

たこの検討委員会でそういったところもしっかりと踏まえながら議論を進めていければな
と思っているところでございます。

それでは、以上をもちまして、第3回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る
検討委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。